資料１

第２次豊川市観光振興推進計画策定委員会　第１回　主な意見

テーマ	主な意見
①豊川稲荷・門前通りの重点整備（5 件）	・豊川稲荷を中核拠点として優先整備し、そこからエリア拡大へ ・正五九（1 月・5 月・9 月）を軸とした御開帳後のにぎわい継続策 ・御開帳の経験・受け入れ態勢を蓄積し、五感体験型の参拝コンテンツへ昇華
②観光拠点・施設の充実（5 件）	・emCAMPUS（豊橋）型の駅前まちなか広場・図書館・イベント複合施設の整備 ・稲荷公園内に市民・観光客が気軽に立ち寄れる休憩・入浴施設（本宮の湯型） ・赤塚山有料フラワーパーク（バラ・いちご・トマト等農業資源活用の観光農園・直売所・農家レストラン） ・団体旅行受け入れ可能な一定規模の宿泊・集客施設の整備 ・日帰り温泉施設の誘致・整備（近隣自治体への流出を防ぐ）
③農業・食資源の観光活用（4 件）	・全国 8 位の農業生産を誇る愛知の強みを活かし、食で豊川へ人を呼び込む ・農地の小口貸し出し（1 反単位）など農業体験・関係人口創出の仕組み ・子供～高齢者・外国人が交流できる農産品・伝統産業マルシェの定期開催 ・本宮山「健康の山」PR と清掃活動を組み合わせた体験型観光コンテンツ
④広域連携・二次交通・周遊（4 件）	・東三河全体を一エリアとして捉え、豊川市がリードする広域観光ソリューション ・湯谷温泉・蒲郡などの宿泊地から豊川稲荷・豊橋を巡る広域周遊ルートの設計 ・高齢化・若者のマイカー離れを見据えた公共交通・二次交通の強化 ・温泉施設等を「周遊案内拠点」として活用し、豊川市への誘導を強化
⑤シビックプライド・市民参加・教育（5 件）	・市民が自まちの魅力・季節ごとの見所を語れる”アンバサダー”育成 ・子どもが地域を学ぶ機会（総合学習・インターンシップ等）と地元企業の受け入れ体制整備 ・転出者・大学進学者・市外勤務者が豊川を想い続ける「ファン」化施策 ・観光を「自分事」として捉える市民・事業者の意識醸成 ・若者向け体験型コンテンツ（食・アクティビティ・参加型イベント）の充実
⑥ブランド・情報発信・調査体制（5 件）	・「豊川稲荷があるところ」を超える独自ブランド・ストーリーの確立 ・スポーツ振興と観光の連携による集客・にぎわい拡大 ・来訪時期・来訪目的・消費額を把握するアンケート調査の仕組み化 ・自前での観光消費額算出・経済効果可視化ツールの整備 ・観光協会の実施計画との整合・連携強化（関連計画への明示）